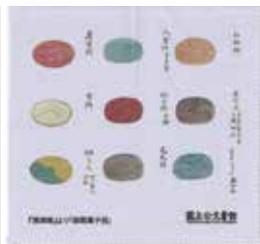


国立公文書館ニュース

Vol. 45
2026.3~2026.5

特集

新たな国立公文書館に向けて



【連載】

今号のアーカイブ	5
Information	6
アーキビストに聞く	7
展示会情報	8

新たな

特集

国立公文書館に向けて

国立公文書館は新館の開館に向けて、我が国の公文書館全体の中核的な役割を担う「Center for Archives」となることを目指し、さまざまな新しい取組を進めています。

本号では、最近の活動の一部を紹介します。

1

新館建設

令和11年(2029)度末の開館に向けて、国の立法・司法・行政の三権が集中するエリアに、衆議院憲政記念館との合築による新館を建設中です。

この新館開館により、国立公文書館は現在の東京本館、つくば分館に新館を加えた三館体制となります。

国立公文書館をより多くの方に知ってもらい、民主主義を支える国民共有の知的資源である公文書等をさまざまな形で利活用していただけるよう、機能のさらなる充実に取り組んでいます。

外観



左側が新たな国立公文書館、右側が合築となる新たな憲政記念館

施設の概要

場 所：国会前庭
(旧憲政記念館敷地 東京都千代田区永田町 1-1-1)
建 物：地上3階地下4階
総建物面積：約 42,421㎡ (憲政記念館・駐車場を含む面積)

これまでの経緯

新たな国立公文書館について (内閣府ウェブサイト)
<https://www8.cao.go.jp/chosei/koubun/shinkan/shinkan.html>



2

千代田区との連携拡大

地域の皆さまにより親しんでいただくことを目指して、千代田区のイベントやキャンペーンに参加したり、近くの博物館や美術館と一緒に協力をしてイベントを開催したりしています。

いろいろな場面で当館を知っていただき、気軽に足を運んでいただけるような取組を続けています。



和綴じイベントの様子▶

3

学習コンテンツの拡充、教育機関との連携強化



左・学習コンテンツ 右・出前授業の様子

<https://www.archives.go.jp/learning/>



教科書に載っている歴史的な出来事を、国立公文書館の所蔵資料を通じて楽しく学べる中学生・高校生向けの学習用動画などを制作し、オンラインで公開しています。令和7年(2025)度は、館の業務を取り上げた新たなコンテンツの制作も始めました。

また、中学校・高等学校への出前授業や見学の受入れ、教員向けツアーの開催に加え、新たな取組として中学生の職場体験を実施するなど、教育機関との連携を強化中です。

4

アーカイブズ・シンクタンク

国立公文書館による調査研究の成果などを元に、行政機関やアーカイブズ機関の職員向けに役立つ情報を発信するウェブサイトです。令和8年(2026)2月、正式版を公開しました。

公文書管理に関わる法規、国際標準、国内外アーカイブズ機関の情報などがご覧いただけます。

<https://www.archives.go.jp/thinktank/>



5

国際セミナーの開催



令和6年(2024)度から、国内外のアーカイブズ機関の実務者向けに、オンラインセミナーを開催しています。

令和7年(2025)度は「アーカイブズ資料の保存と災害対策」のテーマのもと、フィリピン、日本、インドネシア、米国の実務者や専門家からの報告と、活発な意見交換が行われました。

6

新たなデジタルアーカイブ

「国立公文書館デジタルアーカイブ」(www.digital.archives.go.jp)は、令和8年(2026)4月から新しくなります。インターネットを通じて、館が所蔵する資料の目録の検索やデジタル画像等の閲覧ができる基本機能はそのままに、より使いやすくなるよう、画面デザインの刷新や検索機能等の改良も予定しています。

趣味・学習・研究・お仕事に、これからもどうぞご活用ください。



いつでも

どこでも

だれでも

自由に

無料で

※現在開発中の画面です

7

新グッズ発売!

国立公文書館オリジナル商品に、新たなラインナップが加わりました。

おなじみの花や草木の絵はがきに加えて、江戸時代のお菓子の見本帳をモチーフにした和菓子シリーズや、猫の足跡、病気除けの霊獣など、変わり種も登場しました。



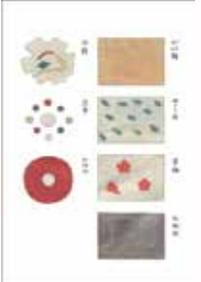
スマホクリーナー



ファイル



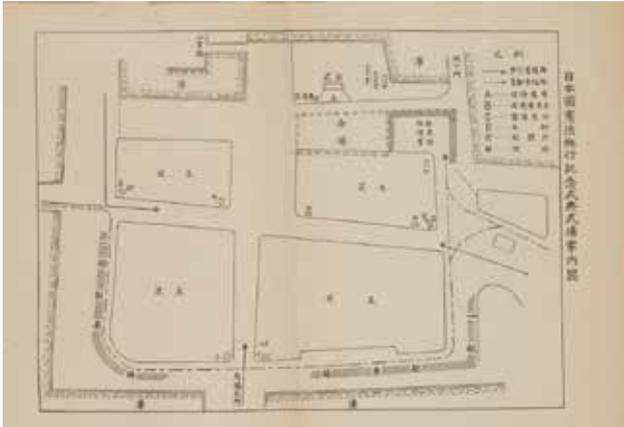
絵はがき





当館は、江戸幕府から引き継いだ古書・古文書、国の行政機関から移管された公文書等を保存し、利用に供しています。

当館の所蔵資料の中から、今号の時季(3～5月)にまつわる資料をご紹介します。



日本国憲法施行記念式典式場案内図

昭和22年(1947)5月3日。

日本国憲法は「公布の日から起算して6箇月を経過した日」(憲法第100条)にあたるこの日に施行されました。

当日は、憲法普及会主催の「日本国憲法施行記念式典」が皇居の宮城前広場において催されました。

また、記念行事の一つとして、東京都と憲法普及会は共同で10年ぶりに、路面電車に装飾を施した花電車の運転を予定していましたが、あいにくの荒天により、運行は翌日となりました。

資料は、記念式典式場の案内図です。

請求番号 雑 04020100

デジタル展示
「誕生 日本国憲法」



誕生 日本国憲法

デジタルアーカイブ



国立公文書館デジタルアーカイブ
NATIONAL ARCHIVES OF JAPAN DIGITAL ARCHIVES



「ショップの掘り出し物」

久しぶりに国立公文書館のショップを覗いてみた。展示会場の入り口にひっそりと位置しており派手ではないが、掘り出し物がいっていると隠れているので、ファンとしては定期的にチェックするのが欠かせない。

定番は、令和と平成のクリアファイルに、原本そのままが写されている憲法や終戦の詔書の絵葉書であるが、なんといっても明治・大正期の歴代内閣総理大臣の花押(署名)がレイアウトされているクリアファイルが書の力強さと個性が凝縮されていて格好良い。加えて、密かな人気があるのが「うつろ舟の蛮女」の文書を写したミニクリアファイルだ。異国風の文字やUFOのような図がなかなかシュールであり、史料でありながら物語性に満ちており、江戸の人々が抱いた驚きまで伝わってくる知的好奇心をくすぐる一品である。

絵葉書もまた、このショップの楽しみのひとつである。定期的に新作が加わり、題材は季節の草花や鳥、和菓子、干支の動物といった親しみやすいものから、江戸時代の猫の足跡を写したものの、魔除けとされる得体の知れない生き物まで幅広い。実際に手紙として使う機会は減ったが、とても美しいので家の一角に飾って楽しむこともできる。明治期の植物図をモチーフにしたトートバッグが一番高い商品なのであるがとても人気があるようだ。カラフルで実用的なつくりで流行に左右されず長く使えそうだ。

昭和100年の展示では、どんな新作が並ぶのだろうか。今から楽しみである。

(前国立公文書館監事 野口 真有美)



「デジタル展示」

<https://www.archives.go.jp/exhibition/past.html>
東京本館の展示会を再構成し、当館HPで公開しています



「国立公文書館デジタルアーカイブ」

<https://www.digital.archives.go.jp>
当館所蔵資料の目録の検索や画像の閲覧などができます



デジタル展示「時代を越えて輝く女性たち」公開

戦前の日本において、女性が社会進出を果たしていく道のりは、必ずしも平坦なものではありませんでした。戦後、女性参政権が認められましたが、女性の地位向上には、なお多くの課題が残されていました。

こうした中で、新たな時代を創り出していった女性たちの生き方は、現代でも力強い輝きを放ち続けています。

※画像は制作中のイメージです。



EASTICA 第 17 回総会等（韓国・釜山）に参加

令和 7 年（2025）11 月 10 日から 13 日まで、国際公文書館会議東アジア地域支部 (East Asian Regional Branch of the International Council on Archives, EASTICA) の第 17 回総会及びセミナー等の会合が、韓国の釜山広域市において開催され、当館も参加しました。

今回のテーマは「記録管理における大転換：パピルスから AI 技術へ (Great Transformation on Records Management: From Papyrus to AI Technology)」で、セミナーでは基調講演、EASTICA 加盟の国・地域別報告、韓国内のアーカイブズ機関からの報告が行われました。この中で、当館は「新たな国立公文書館開館へ向けたデジタル・イノベーション」と題し、新館開館を契機とする機能強化のうち、デジタル分野の取組について報告しました。

会期中には韓国国家記録院主催の第 4 回国際アーカイブズ・フォーラムが開催され、アジア域内における国際協力活動の事例紹介等が行われました。

本会合については、当館の情報誌『アーカイブズ』第 99 号でもご紹介しています。



総会の様子(写真 韓国国家記録院)



当館からの発表の様子(写真 韓国国家記録院)

休刊のお知らせ

長年にわたり発行を続けてまいりました広報誌『国立公文書館ニュース』は、本号をもちまして休刊させていただくこととなりました。創刊以来、多くの皆さまに支えられ、本誌を通じて、国立公文書館のさまざまな情報をお届けできたことに、心より御礼申し上げます。

なお、今後の情報発信につきましては、ウェブサイト・メールマガジン・SNS 等にて継続してまいります。引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

長きにわたりご愛読いただきました皆さまに、改めて深く感謝申し上げます。

ふらっとツアーのご案内 (令和 8 年 3 月～5 月)

当館概要の説明後、バックヤード（閲覧室、修復室、書庫設備）を見学し、常設展を観覧するツアーを開催しています（所要時間 1 時間程度）。

事前申込不要、参加費無料です。ぜひご参加ください。

開催日 3/19 (木)、4/16 (木)、5/21 (木)

開始時間 各日いずれも 13:30 ～

開催日は、ホームページの【見学予約カレンダー】をご確認ください。





アーカイブズで働く専門職員・認証アーキビストに仕事の醍醐味などを聞くコーナーです。

業務を通して得た多くの経験を後輩に引き継いでいきたい

上席公文書専門官 寺澤 正直さん

学生時代は、図書館情報学と呼ばれる分野で、地域資料や目録について、学んでいました。そうした中で、大学の先生から国立公文書館が非常勤職員を募集していることを教えていただき、学んできた内容と親和性の高い職場であれば、自身のスキルを生かせるのではないかと考えて応募しました。無事に採用され、2010年から勤務を開始しました。

入職当初の約2年間は、業務課の電子情報係に配属され、国立公文書館デジタルアーカイブと電子公文書等の移管・保存・利用システムの担当の一人でした。特に、電子公文書のシステムは、国立公文書館にとって初号機（初めての開発するシステム）でしたので、お手本が少ない手探りの業務でした。それらの業務の傍ら、2011年に東日本大震災が発生し、被災した公文書の修復支援事業の一環で、東北地方へ赴き、短期間ですが、作業のお手伝いをしたことが記憶に残っています。2012年からネットワークの管理や情報セキュリティについての業務を行

う情報システムの担当になりました。2014年からは企画法規係に配属され、法人の年度目標や計画の策定、特定歴史公文書等の利用決定に関する審査請求対応、広報業務などを担当しました。この時期に「ユネス（ジョン・F・ケネディ）をテーマとした特別展示を開催していただき、広報担当として関連イベントの企画や実施も携わりました。非常に力が入った展示であり、今でも特に思い入れの深い業務の一つです。

2016年からは内閣府へ出向し、国立公文書館との橋渡し役となる業務を担当しました。その後、2018年に館へ戻ってからは積極収集担当として、資料の寄贈・寄託に関する相談対応、資料の所在調査、デジタルデータによる資料収集などを行いました。続く2020年からの4年間は、資料の保存・修復、目録作成、利用支援といった、国立公文書館の中核をなす資料を扱う業務に携わりました。

現在は上席公文書専門官として、海外における公文書管理に関する情報収集、公文書管理や公文書館に関する国際会議への参加といった、国際業務に携わっています。また、調査研究の担当として、研究論文の執筆を行うこともあります。最近では、新館に関する業務、特に研究基盤（シンクタンク）に関する業務が増えてきていることもあり、資料や業務に関わる幅広い分野に携わっています。

国立公文書館で仕事をする魅力として、いろいろな仕事を、様々な分野の専門性の高い職員と一緒にやるということが挙げられると考えています。今後は、これまでの業務を通じて得た経験や知見を後輩へと引き継ぐこと、専門性の高い職員が多く在籍する組織の中で、互いに連携しながらそれぞれの力を発揮できる環境づくりに努めていきたいと考えています。

現在は上席公文書専門官として、海外における公文書管理に関する情報収集、公文書管理や公文書館に関する国際会議への参加といった、国際業務に携わっています。また、調査研究の担当として、研究論文の執筆を行うこともあります。最近では、新館に関する業務、特に研究基盤（シンクタンク）に関する業務が増えてきていることもあり、資料や業務に関わる幅広い分野に携わっています。

現在は上席公文書専門官として、海外における公文書管理に関する情報収集、公文書管理や公文書館に関する国際会議への参加といった、国際業務に携わっています。また、調査研究の担当として、研究論文の執筆を行うこともあります。最近では、新館に関する業務、特に研究基盤（シンクタンク）に関する業務が増えてきていることもあり、資料や業務に関わる幅広い分野に携わっています。



3～5月の東京本館開館情報

※最新の開館情報については当館HP等をご確認ください。

	3月	4月	5月
展示室 〔1階〕	「弘賢随筆」「うつろ舟の蛭女」原本展示 2/28～3/13	昭和の日本人とフロンティア—南極・深海・宇宙への挑戦— 3/20～5/24（期間中の月曜日、5/7（木）は休館）	
		「平成の書」「令和の書」原本特別展示 3/20～4/5	
基本展示 「日本のあゆみ」	＊開室日：（3/19まで）月曜日～土曜日（3/20以降）火曜日～土曜日、特別展開催中の日曜日・祝日 ＊開室日：（3/19まで）日曜日（3/20以降）特別展開催日以外の日曜日、月曜日、5/7（木）		
閲覧室 〔2階〕	＊開室日：火曜日～土曜日（日曜日、月曜日、祝日は閉室） ＊時 間：午前9時15分～午後5時（入室・当日閲覧受付は午後4時30分まで）		



展示会情報

令和8年春の特別展 昭和100年記念特別展

昭和の日本人と フロンティア

—南極・深海・宇宙への挑戦—



開催時間

午前9時15分～午後5時

※期間中の金曜日は午後8時まで
(3/20は除く)

毎週月曜日、5/7(木)は休館
入場無料、予約不要

何をフロンティアとし、何を求めたのか——

昭和への改元に際し、元号の出典は「百姓昭明、協和万邦」とされ、諸外国との協和が唱えられていました。当時の日本人は欧米諸国にならい、未踏の地や未知の領域＝フロンティアを目指し、対外進出や軍事を中心とした先端技術の開発を進めました。しかし、日本は第二次世界大戦に敗れ、占領下で軍事技術の開発などを制限されました。

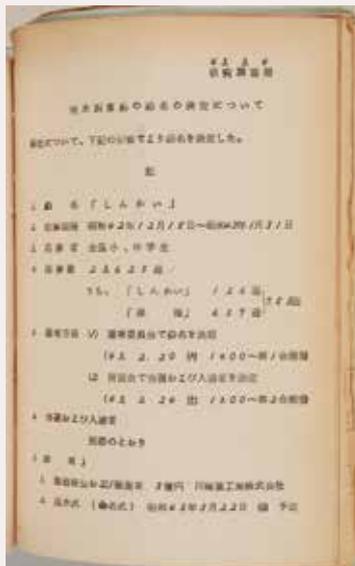
昭和27年、日本の占領が終わりを告げ、自ら再び広大な世界に向き合った時に、日本人は何をフロンティアとし、そこに何を求めたのか。昭和100年を迎えた現在、技術の発達やインターネットの普及によって「未知」が減少し、フロンティア探求のモチベーションも低下している中、南極・深海・宇宙という未知の領域に対して昭和の日本人が挑んだ姿を、当館所蔵資料を通じてご紹介します。

昭和の日本人のフロンティア・スピリットから、混迷する現代を生き抜く明日への活力を再発見してください。

展示資料の紹介



南極調査船宗谷の行動について (運輸省)
請求番号：平 14 内閣 00746100



第905回(報告)2、潜水調査船船名募集結果について (研究調整局)
請求番号：昭 55 科技 00208100



ロケット発射実験について (電文報告)
請求番号：平 23 文科 00004100



「国立公文書館 友の会」
会員募集中!

詳しくは
こちらから



ホームページ



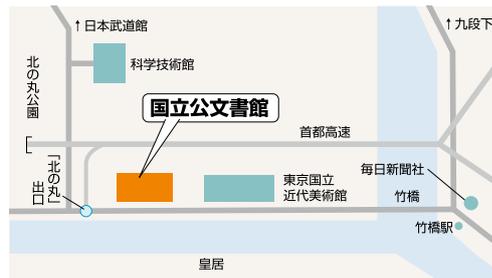
国立公文書館ニュースweb版



X(Twitter)



Facebook



【東京本館】 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園3番2号
電話03-3214-0621 (代表) FAX 03-3212-8806
【つくば分館】 〒300-4246 茨城県つくば市上沢6番6号
電話029-867-1910 (代表) FAX 029-867-1939